

上映スケジュール

10/18(土) — 10/31(金)

10/18(土)	14:20 - 15:50	<パトリシア・マズィ>	走り来る男
	16:00 - 17:55	<パトリシア・マズィ>	ボルドーに囚われた女
10/19(日)	14:20 - 15:55	<リュック・ムレ>	ビリー・ザ・キッドの冒険 + ウニの陰謀★
	16:50 - 18:30	<リュック・ムレ>	カップルの解剖学 + 開栓の試み
10/20(月)	14:20 - 16:00	<リュック・ムレ>	ブリジットとブリジット + 黒い大地
	16:10 - 17:55	<カンヌ傑作選>	歓喜
10/21(火)	14:20 - 15:55	<リュック・ムレ>	メドールの帝国 + 映画館の座席 + ロングスタッフ氏の亡霊
	16:10 - 17:55	<カンヌ傑作選>	ジムの物語
10/22(水)	14:20 - 17:10	<カンヌ傑作選>	パシフィクション
10/23(木)	14:20 - 16:16	<カンヌ傑作選>	ゴールドマン裁判
	16:25 - 18:00	<リュック・ムレ>	ビリー・ザ・キッドの冒険 + ウニの陰謀
10/24(金)	14:20 - 16:05	<カンヌ傑作選>	ジムの物語
	16:15 - 17:50	<パトリシア・マズィ>	走り来る男
10/25(土)	18:00 - 20:45	<カンヌ傑作選>	パシフィクション
10/26(日)	18:00 - 19:50	<カンヌ傑作選>	ジムの物語
10/27(月)	16:50 - 18:40	<パトリシア・マズィ>	ボルドーに囚われた女
	18:50 - 20:20	<パトリシア・マズィ>	走り来る男
10/28(火)	16:50 - 18:30	<リュック・ムレ>	カップルの解剖学 + 開栓の試み
	18:40 - 20:20	<リュック・ムレ>	ビリー・ザ・キッドの冒険 + ウニの陰謀
10/29(水)	16:50 - 18:30	<リュック・ムレ>	ブリジットとブリジット + 黒い大地
	18:40 - 20:20	<カンヌ傑作選>	歓喜
10/30(木)	16:50 - 18:31	<カンヌ傑作選>	ジムの物語
	18:40 - 20:20	<リュック・ムレ>	カップルの解剖学 + 開栓の試み
10/31(金)	16:50 - 18:46	<カンヌ傑作選>	ゴールドマン裁判
	18:55 - 20:25	<リュック・ムレ>	メドールの帝国 + 映画館の座席 + ロングスタッフ氏の亡霊



★アフタートークイベント★

10/19(日) 14:20

リュック・ムレ監督『ビリー・ザ・キッドの冒険』 + 『ウニの陰謀』

トークゲスト：葛生 賢さん（映画作家・映画批評家）

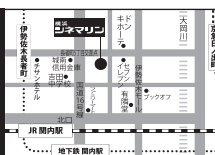
10/18(土) — 31(金) 15 作品一挙公開!

【当日料金】一般 1,900円

会員・大専・シニア 1,300円 / 高校生以下 800円

*チケットは上映3日前より販売スタート! (劇場受付9:30~、Web10:00~)

横浜 R16 長者町5丁目交差点沿
シネマリン
045-341-3180
www.cinemarine.co.jp



主催 横浜シネマリン、一般社団法人コミュニティシネマセンター
企画協力 アンスティチュ・フランス日本 助成 アンスティチュ・フランスパリ本部、ユニフランス
アンスティチュ・フランス日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー CNC、笹川財団
特別協力 JAHO 協力 ブンクテ フィルム提供及び協力 レ・フィルム・デュ・ロサンジュ、MK2



Mois de la critique

Nouveaux rendez-vous du cinéma français

映画批評月間

フランス映画の現在 2025

10/18(土) — 10/31(金) | 横浜シネマリン

カンヌ映画祭が
選んだ傑作!

パトリシア・マズィ
監督特集

知られざるヌーヴェル・ヴァーグ
リュック・ムレ特集

<http://jc3.jp/mdlc2025/>

日本で上映される機会のないフランスの最新作、あるいは隠れた名作を紹介する特集「映画批評月間〜フランス映画の現在」。

2025年は、パトリシア・マズィ監督の初長編作『走り来る男』と最新作『ボルドーに囚われた女』。カンヌ国際映画祭をはじめとする映画祭や批評家たちから高く評価された日本未公開の4作品、また「知られざるヌーヴェル・ヴァーグの作家」リュック・ムレの作品を上映します。

《映画批評月間／フランス映画の現在2025》のウェブサイトで、主要紙(誌)に掲載された批評家のコメントやパトリシア・マズィ監督の言葉、リュック・ムレ監督のプロフィールなどを読むことができます！
<http://jc3.jp/mdlc2025/>

カンヌ映画祭が選んだ傑作！



©Films Boutique

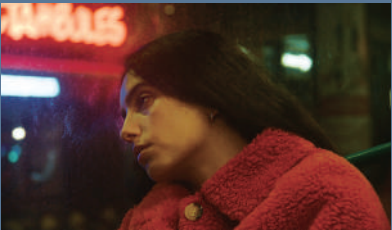
パシフィクション *Pacification d'Albert Serra*

【スペイン＝フランス＝ドイツ＝ポルトガル／2022年／165分／カラー】

監督:アルベール・セラ 出演:ブノワ・マジメル、ハホア・マハガアナウ、マルク・スジーニ

第75回カンヌ国際映画祭コンペティション部門出品／「カイエ・デュ・シネマ」2022年ベストテン第1位

南太平洋のフランス領ポリネシアにある「デ・ローラー共和国」。高等弁務官は、完璧なマナーを身に着け、公式の場でも裏社会でも、地元住民の動向を怠りなく注視し、抜かなく身を処してきた。太平洋上で潜水艦が目撃され、フランスの核実験再開の噂が流れる中、海軍総督らが島に上陸、不穏な気配が島全体を覆い始める。



©DR

歓喜 *Le Ravissement d'Iris Kaltenbäck*

【フランス／2023年／97分／カラー】

監督:イリス・カルテンバック 出演:アフシア・エルジ、アレクシ・マナンティ、ニナ・ミュリス

第76回カンヌ国際映画祭批評家週間出品

仕事熱心な助産師のリディアは恋愛で破局を迎えていた。同じ頃、親友のサロメが妊娠、共に出産までのときを過ごす。難産を乗り越えて新生児を取り上げ、名付け親となり、育児にも積極的に協力する。そんなある日、かつて一夜を過ごしたミロスと再会、孤独なリディアの小さな嘘はやがて人生を賭けた大きな事件へ広がっていく。

パトリシア・マズィ監督特集 Focus Patricia MAZUY

パトリシア・マズィは、フランス映画の中でも、ユニークで力強いスタイルを確立している。アメリカ滞在中に出会ったアニエス・ヴァルダの庇護のもと、最初の短編をつくり、ヴァルダの最高傑作と評される『冬の旅』（1985）で編集を担当する。初長編監督作『走り来る男』以降、マズィは、激しい感情、あるいは断固たる決意をひめたヒロインを主人公としている。フォードとカーペンターというアメリカ映画の偉大なるふたりのジョンをこよなく敬愛し、広い空間と独特なロケーションを好み、階級闘争や、馬や牛といった動物への情熱、自然との関係を描きながら、彼女の映画は人間の紆余曲折する運命に光を当て続けている。最新作『ボルドーに囚われた女』ではイザベル・ユベールとアフシア・エルジ、ふたりの偉大な女優が演じる世代、階層の異なる女性間の友情、テンション、サスペンスが見事に描かれている。



©DR

走り来る男 *Peaux de vaches*

【フランス／1988年／87分／カラー】

出演:ジャン＝フランソワ・ステウナン、サンドリーヌ・ボネール、ジャック・スピエセル

1989年カンヌ国際映画祭ある視点部門出品作品

北フランスのある田舎町、ジェラールは兄とともに酩酊し、農場に火事を起こしてしまい、たまたまそこにいた浮浪者が命を落としてしまう。10年後、刑務所から出所した兄は、美しいアニーと結婚し、娘ができ、あらたに農場を持つジェラールのもとに戻ってくる。はたして彼は復讐を果たしに戻ってきたのだろうか…。撮影はヌーヴェルヴァーグを支えた名匠ラウル・クタル。

知られざるヌーヴェル・ヴァーグ:リュック・ムレ特集 Rétrospective Luc MOULLET

「リュック・ムレは、ブニュエルとタチの両者を継承するおそらく唯一の存在だ」——ジャン＝マリー・ストロブ（映画作家）
ヌーヴェル・ヴァーグ唯一のバーレスク映画作家であり、フランスをはじめ世界的にカルト的な人気を誇るリュック・ムレ。コメディ、冒険活劇、西部劇、日記、ロードムービー、犯罪映画、そしてカップル、地理、文学作品を題材にした作品など、あらゆるフォーマット、あらゆるジャンルで38本の映画を生んでいる。



(上段左から) ブリジットとブリジット *Brigitte et Brigitte* (1966) ©DR／ビリー・ザ・キッドの冒険 *Une Aventure de Billy le Kid* (A Girl Is a Gun) (1971) ©DR／カップルの解剖学 *Anatomie d'un rapport* (1976) ©DR (下段左から) 黒い大地 *Terres noires* (1961) ©DR／ウニの陰謀 *La Cabale des oursins* (1990) ©DR／開栓の試み *Essai d'ouverture* (1988) ©DR／メドールの帝国 *L'Empire de Médor* (1986) ©DR／映画館の座席 *Les Sièges de l'Alcazar* (1986) ©DR／ロングスタッフ氏の亡霊 *Le Fantôme de Longstaf* (1996) ©DR

【プログラム1】

ブリジットとブリジット *Brigitte et Brigitte*

【フランス／1966年／75分／モノクロ】 出演:フランソワーズ・ヴァテル、コレット・デコンブ

ビレネー出身の女の子とアルプス出身の女の子が上京したパリで偶然出会う。同じ名前を持つふたりは意気投合し、一緒に大学生活を満喫しようとするのだが…。ムレは首都に到着した瞬間から、自分の生い立ちを忘れ、見知らぬ世界で受け入れられるために規範に従わなければならない若者たちを観察する。フラール、ロメール、シャブロルらが友情出演。ゴダールが「真に革命的な映画」と讃えられ、イェール映画祭で審査員特別賞を受賞した。

黒い大地 *Terres noires*

【フランス／1961／19分／カラー】

道路がなく、ほとんど消滅しようとしているようなふたつの村、ビレネー山脈のマンデとアルプスのマリオーを探访する。題材の深刻さと短編映画の遊び心との間に楽しいコントラストを生み出している。

【プログラム2】

ビリー・ザ・キッドの冒険

Une Aventure de Billy le Kid (A Girl Is a Gun)

【フランス／1971年／78分／カラー】 出演:ジャン＝ピエール・レオー、ラシェル・ケステルベール

ひとりでウェルズ・ファーゴの駅馬車を襲ったビリーは戦利品を運ぶのに苦労する。そんな時、ビリーはアンと出会う…。ホークスを進んで参照しながら、砂漠、断崖、山道を舞台に、少人数のクルーとわずか6日で唯一無二のシュールな西部劇を撮り上げた。主人公を演じる「P・レオーは、この多義的な側面を持つキャラクターを演じるにより、それまでの役やイメージから離れ、俳優としての新たな可能性を示している。編集はジャン・ユスターシュ。

ウニの陰謀 *La Cabale des oursins*

【フランス／1990／17分／カラー】

北フランスの石炭鉱山跡に残る“ボタ山”が、コロラド州のグランドキャニオンやエジプトのピラミッドと同じように、観光名所とみなされたらどうだろう。地理をこよなく愛するムレがフランスを旅する。



©DR

ボルドーに囚われた女 *La Prisonnière de Bordeaux*

【フランス／2024年／108分／カラー】

出演:イザベル・ユベール、アフシア・エルジ、マーニュ・ハヴァード・ブレック

カンヌ国際映画祭監督週間出品

ボルドーのある屋敷に一人で暮らすアルマと、郊外に住む若い母親ミナは、同じ刑務所に留置されている夫の不在を中心に生活を組み立てていた。夫たちの面会に訪れたとき、二人の女性は出会い、波乱に満ちた、不可能な友情を育むことになる…。